



ちょボラ

だより



新見市社会福祉協議会では、学童期からのボランティア活動として、自分にもできる「ちょっとしたボランティア“ちょボラ”」を推進しています。この取組は、児童自身が身の回りの人や地域との関わりの中で「私にもできること」を考え、体験することにより、思いやりの心やボランティア意識を育むことを目的に行っています。

市内全小学校で実施!!
372人が「ちょボラ」に取り組みました!

地域を良くするために

草取り、花壇の水やり
 公園や道のごみ・落ち葉拾い
 大きな石・木を端に寄せる
 募金、訪問活動に参加

環境を守るために

エコバックの利用
 ゴミの分別、リサイクル
 クリーン作戦に参加
 緩んだ蛇口を締める
 ゴミを持ち帰る

気持ちよく生活するために

困っている人へ声かけ
 あいさつ、荷物を運ぶ手伝い
 次の人のためドアを開けて待つ
 落とし物を拾い届ける

お祭りのごちそうを
 おすそ分けしました



全児童の取り組み回数

合計 3,392回

ちょボラをしてみてもいいよ



ちょボラに取り組んだら
 みんなが笑顔になったので、これからも続けよう
 と思います。

ちょボラも重ねたら大きなボランティア活動になり、小さなことも大切だと分かりました。

地域の方が喜んでくれたので、これからもがんばろうと思いました。

いつも何気なく過ごしているけど、周りを見ると
 たくさんの落ち葉やゴミが落ちていてびっくりしました。

地域の訪問活動に参加しました。ちょボラを通して、地域との関わりが大切だと分かりました。

ちょボラは、人の役に立てることが分かりました。これからはちょボラノートがなくても自分から取り組みようと思います。

ポイ捨てされている空き缶の多さにおどろきました。この活動を通して良い町づくりができればいいなと思いました。

これからは、地域の人にたくさんあいさつをしていこうと思いました。



保護者の声

「募金をしたよ」と聞いて、自分の事だけではなく、自分以外の事に目を向けていることがすごいなと思いました。

公園の溢れかえったゴミ箱を見て、「どうして誰も回収しないのかな」と話すなど、今まで気にならなかった事に目が向き、自然とボランティアに関心が高まることをわが子を通して感じました。

地域の方と話したり、ゴミ拾いする様子を見てほっこりしました。困っている人に話しかけている姿も見られ、心身共に成長しているんだなと思いました。

担任の先生の声

朝、学校に来ると、「先生、〇〇したよ」「〇〇もボランティア？」などとボランティアに関する会話が増えました。

クラスの中で「誰かのために」「これもボランティアになるんだ!」という意識や発見をしながら生活ができるようになっていました。

友達同士でどんなちょボラをしたのかやり取りをしていて、ボランティア意識が高まっている様子でした。

ちょボラに取り組むみんなを見て

あともう少し

ちょっとした思いやりをもって様々なちょボラ活動が行われたことで、笑顔の花がたくさん咲きました。子どもたちからは、「人や地域のために行動すると、自分自身や周りの人、そして、地域も気持ちが良くなることだと学んだ」といった感想が多く見られ、ご家族からは、「自分にできることを探して取り組む子どもの姿に成長を感じた」といった感想が多く寄せられました。

これからの生活の中でもちょボラ体験を活かし、思いやりの輪が広がることを願って、新見市社会福祉協議会では、今後もちょボラを推進していきます。

この事業は「赤い羽根共同募金」の収益を財源に実施しています。